

contents

第12回アジア・オセアニア性科学学会報告 ……	1	今月のブックガイド ……	8
北丸雄二のニューヨークレポート② ……	6	JASEインフォメーション ……	9
「ありのままのわたしを生きる」ために② ……	7		

■第12回アジア・オセアニア性科学学会報告

アジア・オセアニアにおける性の健康の普及推進
(Promotion of Sexual Health in Asia-Oceania)

大阪府立大学地域保健学域(教育福祉学類)教授

WAS(世界性の健康学会)性の権利委員会委員長 東 優子

「出雲の国」で性を語る

古くから日本では、旧暦10月を「神無月(かんなづき)」と呼ぶ。その由来は、年に一度の会議に出席するため、全国の神様が出雲大社(鳥根県出雲市)に集まり、出雲以外には神様がなくなってしまう、という神話にある。逆に、神様の集まる「出雲の国」では、この旧暦10月を「神在月(かみありづき)」と呼ぶ。

2012年8月2日から5日までの4日間、神話に登場する王国を舞台に、第12回アジア・オセアニア性科学学会(会長・大川玲子)が開催された。世界的な経済不況に加えて、とくに東日本大震災の爪痕深い日本での開催とあって、参加者の出足が鈍ることも予想された。しかし、そうした悲観的な予想に反してふたを開けてみれば、会場となった「くにびきメッセ」(松江市・鳥根県立産業交流会館)には、世界16か国から270名余りが参集し、熱心な学術交流のほか、波

多野芳郎・副大会長の尽力によって実現した出雲観光ツアーやフォーゲル・パーク(花と鳥のテーマパーク)での懇親会、伝統芸能のアトラクション(安来節、石見神楽)などを通じて、心温まる国際交流が展開された。

また、アジア・オセアニア性科学学会松江大会を共催する形で、「第42回全国性教育研究大会」と「第32回日本性科学学会」が同時開催されたことで、参加人数も増え、そのことが学術プログラムの内容の充実にもつながった。



アジア・オセアニア性科学学会 (AOCS) とは

アジア・オセアニア性科学学会 (Asia-Oceania Congress of Sexology: AOCS) は、アジア・オセアニア性科学連合 (Asia-Oceania Federation of Sexology: AOFS) に加盟する国が持ち回りで組織委員会を発足させて主催する隔年会議である。WAS (世界性の健康学会、旧・世界性科学学会) 主催の国際会議と交互に開催される。

AOFS の歴史は、アジア性科学連合 (AFS) として発足した 1990 年にさかのぼる。2004 年にオーストラリアやニュージーランドなどが加わったことで、アジア・オセアニア性科学連合に改称された。

日本で AOCS が開催されるのはこれが 2 回目である。1995 年の横浜・WAS 国際会議を含めれば、日本で性科学に関する国際会議が開催されるのはこれが 3 回目で、過去 2 回は故・松本清一先生 (自治医大名誉教授、日本家族計画協会会長 = 当時) が会長を務められた。松江大会の 2 年後はオーストラリアがホスト国となり、ブリスベンで第 13 回大会が開催される予定である (下表参照)。

AOCS ホスト国 (一覧)

1990	香港	2004	ムンバイ (インド)
1992	上海 (中国)	2006	バンコク (タイ)
1994	ニューデリー (インド)	2008	北京 (中国)
1996	台北 (台湾)	2010	バリ (インドネシア)
1998	ソウル (韓国)	2012	松江 (日本)
2000	神戸 (日本)	2014	ブリスベン (豪)
2002	シンガポール	2016	韓国※

※開催地未定



開会式で挨拶にたつ AOCS 松江大会・大川玲子会長



歓迎レセプションの様子

なお、世界性の健康学会 (WAS) にはアジア・オセアニア (AOFS) のほか、アフリカ (AFSHR)、ヨーロッパ (EFS)、南米 (FLASSES)、北米 (NAF-SO) と、世界 5 大陸すべてに下部組織が存在している。そこで今年は、それぞれの地域において AOCS 松江大会と同じような国際 (隔年) 会議が開催されているのである (※ WAS は団体会員と個人会員で構成されている。AOFS などに加盟していない団体・個人でも、審査・承認を経て WAS の会員登録をすることができる。

詳しくは、<http://www.worldsexology.org/> を参照)。

		8:30	9:00	12:30	11:00	12:30	13:30	14:00	15:30	16:00	17:30	18:30	19:00	20:00	21:00
8月2日(木)							登録					歓迎 レセプション			
							第12回全国性感教育 研究大会				特別講演		公開講座 A		
							ワークショップ ①		ワークショップ ②						



長谷川真理子氏による基調講演「性の進化とその帰結」

多彩な学術プログラム

学術プログラムは、一般口演（31）、ポスター発表（36）、特別講演（1）、会長講演（1）、基調講演（3）、シンポジウム（12）、ランチョンセミナー（4）、ミニレクチャー（4）、スペシャルセッション（6）、ワークショップ（3）、市民公開講座（2）などで構成され、網羅されたテーマの豊富さはまるで「性科学の見本市」である。

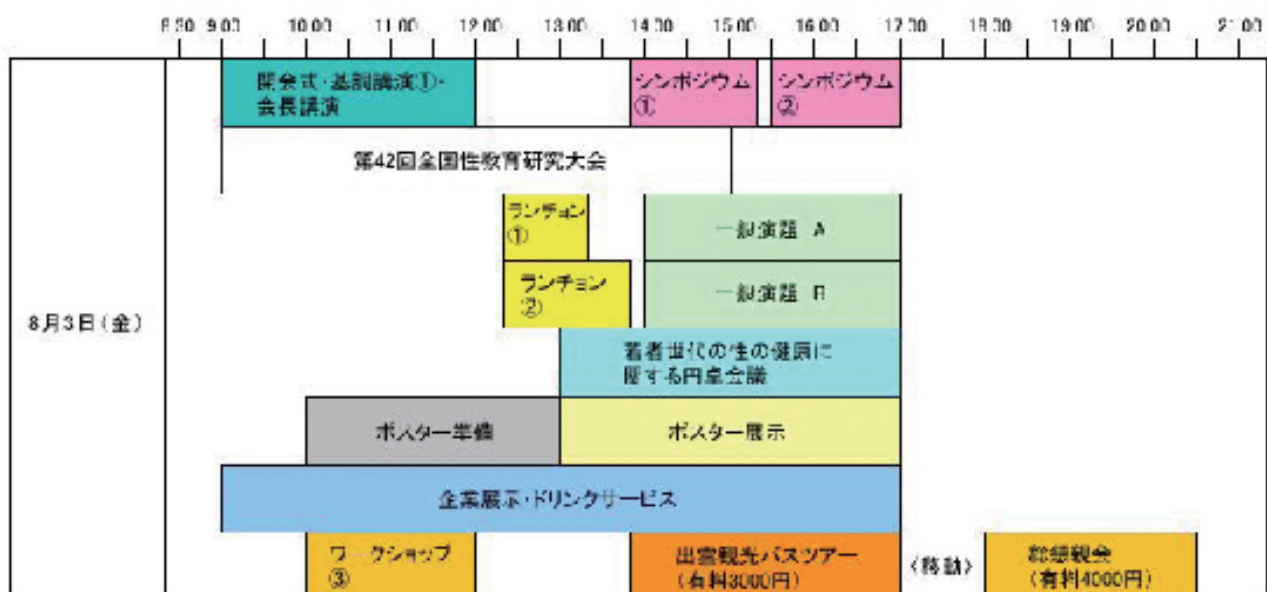
たとえば、シンポジウムのテーマだけを羅列してみても、「性犯罪」「性感染症」「男性の加齢とセクシュアリティ」「ピア教育」「日本の青少年のセクシュアリティ」「女性が性を楽しむために」「大学におけるセクソロジー教育」「HIV／AIDS：MSM 予防介入」「射精障害」「性同一性障害に関わる性別適合手術」「HPV ワクチンの普及啓発と性教育」「トランスジェンダーの健康」な



若者円卓会議の関連企画・公開座談会「マスタベーションと性の健康」の様子

どがずらりと並ぶ（タイトルは一部省略）。ランチョンセミナーでは「障害者と性」「緊急避妊の現在・将来」「妊娠中絶リピーター防止対策」、市民公開講座では森岡正博氏による「草食系男子はなぜ登場したのか」など、今日的话题も多く取り上げられた。

医学・医療、社会学、心理学、教育学、生殖・生物学、文化・政治など、学際性豊かなプログラムが実現したのは、組織委員会が日本性科学連合に加盟する7団体（日本性教育協会、日本家族計画協会、日本思春期学会、日本性機能学会、日本性感染症学会、日本性科学会、性の健康医学財団）の代表者で構成されていたことによる。また、過去の AOCs には「男性の性功能」に偏った大会もあったが、今回のプログラムにおけるバランスのよさは、学術プログラム委員長・池上千寿子氏および、副会長兼同委員会顧問の宮原忍氏によるところが大きい。





シンポジウム「日本の青少年のセクシュアリティ」報告メンバー

海外から参加した主な顔ぶれとしては、AOFSの創立に尽力したことで知られるウング教授（香港）、2015年のWAS国際会議会長・アダイカン教授（シンガポール）、第11回AOCS会長でAOFS会長のアメリカ教授（インドネシア）、第10回AOCS会長のフリー教授（中国）、第13回AOCS会長のレーデルマン教授（オーストラリア）、第14回AOCS会長の朴教授（韓国）などが参加。さらには、WAS役員であるフランス国立衛生医学研究所のジアミ教授、WAS学術委員長ドートリー准教授（オーストラリア）、WAS性の権利委員会委員ティリー氏（オーストラリア）、日本の性教育者にはすでにお馴染みのダイヤモンド教授（米国）、トランスジェンダーの国際的専門職組織 WPATH（World Association for Transgender Health）の役員であるウィンター准教授（香港）などの存在も、本大会の国際性に彩りを添えていた。

残念だったのは、基調講演が予定されていた WAS

のローズマリー・コーツ会長が、病気を理由に、急遽来日を中止せざるをえなくなったことである。幸いにも、会長挨拶については彼女からの親書をジアミ教授が代読する形で、また基調講演「ICD（WHO 国際疾病分類）2013の挑戦と変化」については、偶然にも彼女と同じWHOのICD改訂作業部に所属していたウィンター准教授を代役に立てることで、すべてがうまく収まった（その後間もなく、彼女はWAS会長という大役をも辞職することになったが、現在も引き続きWAS役員として活躍中である）。



WAS 若者部門ユース・イニシアティブのロゴ

若者円卓会議

国内の性科学や性教育が直面している深刻な課題のひとつは、「次世代育成」である。諸外国の国際学会で出会う若者参加者の数は決して少なくないが、日本では、国内の関連学会でも（医学・看護系を除いて）若い世代を見かけることなどほとんどないのが現状で

	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	15:30	17:00	18:00	18:30	20:00	21:00
8月4日(土)	SP ①	基調講演 ②・③	シンポジウム ⑤				シンポジウム ⑥	シンポジウム ⑦			公開講座 8			
	SP ②	シンポジウム ③	シンポジウム ⑧			ラン チョン⑤	シンポジウム ③	一般演題 ⑩						
	SP ④	シンポジウム ④	シンポジウム ⑦			ラン チョン④	第12回日本性科学会学術集会							
			ポスター展示				発表		撤去					
			企業展示・ドリンクサービス											
	8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00	17:30	18:30	19:00	20:00	21:00
8月5日(日)	SP ④	シンポジウム ⑪			閉会式									
	SP ⑤	シンポジウム ⑫												
	SP ⑥	一般演題 ⑪												



ワークショップでのひとこま

ある。しかし、今回は少し事情が違った。

まず、「世界における性の健康と性の権利の推進」をミッションとする WAS が 2010 年より展開している「世界性の健康デー」（9 月 4 日）の関連イベントとして、松江大会の会議場メインホールで「世界性の健康デー・公募ポスター展」が開催された。応募者の多くは専門学校・美術大学の学生で、会場に姿はなくても、作品を通じてその存在を感じることができた。

また WAS の若者部門として新設されたユース・イニシアティブの副代表（心理学専攻のメキシコ人大学生）が来日し、初の「若者円卓会議」も開催された。若者委員会の主な活動目的は、「21 世紀の若者の性の健康」について世界中の若者から意見を収集し、若者の性の健康に関する活動を世界的に展開していくことにある。そこで、世界 5 大陸で隔年会議が開催されている今年、それぞれの地域で若者円卓会議を開催することになったのである。

ホスト国の窓口となったのは、日本家族計画協会・若者委員会（U-COM）の元代表である柳田正芳氏（現・「Link-R：若者世代にリプロヘルスサービスを届ける会」の代表）。彼の熱心な働きかけにより、参加者への奨学金制度（提供：TENGA）や、円卓会議関連イベントとして「公開座談会」も実現した。

参加者の顔ぶれは U-COM の現役メンバーほか、これまで学会とは接点のないところで性の健康に関連する活動を展開してきた若者たちである。性の健康を推進するにあたって、こうした若者の主体的取り組みがいかに重要であるかは、強調するまでもない。今回の実績が評価された柳田氏は、WAS 若者委員会のメンバーにもなった。国内の性教育／性科学の活性化につながる、今後ますますの活躍を期待したい。

来年は、ブラジルでの WAS 国際会議

短くも、充実した 4 日間が過ぎ、AOCS 松江大会は無事終了した。慣例に従い、大川玲子・組織委員会委員長（学会長）は 2014 年まで AOFS 会長を務めることになる。

松江とブリスベンの間にある WAS 国際会議は、来年ブラジルで開催される。国際会議への参加は、旅費・宿泊費・参加登録料など経済的負担が大きく、日本語通訳がつかないために敬遠する人も多い。奨学金制度があっても、発展途上国が優先されるため、日本のような先進国では、経済的に恵まれない民間ボランティア団体で活動する人々や学生などが、こうした恩恵を受けられることはほとんどない。ICT が格段に進歩した現在、ウェブ中継など、新しいツールの導入が具体的に検討される時期にきているとも思う。しかしやはり、人と人がじかに出会い、交流することによってもたらされるエネルギーは量り知れず、エンパワメントこそが国際会議の醍醐味であると思う。

「安・近・短」とは程遠い南米で開催される国際会議ではあるが、AOFS 学会事務局（日本）の新メンバーに加わった小貫大輔氏（東海大学准教授）は、ブラジルと日本のかけ橋となる活動で知られ、学会参加ツアーの中心的存在としても活躍していただけたそうである。WAS 国際会議は、その規模や内容の違いゆえに、AOCS とは異なる経験を提供してくれるはずである。この機会にぜひ、若者を含む、ひとりでも多くの方に、欧米とは異なる文化・社会をもつ彼の地で開催される国際会議に参加していただきたいと願っている（ツアー参加募集は、本誌でも告知される予定）。



閉会式後に記念撮影する AOFS 役員